

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

事業番号	27	事業名	文化の家事業	担当部課	くらし文化部文化の家
基本情報	第6次総合計画・基本目標	5	いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪	決算書 ページ	—
	行政改革指針・重点課題	7	市民参加の仕組みづくり	会計 区分	一般会計
	法定受託事務の有無	無		予算区分(款 - 項 - 目)	
	その他(関係計画、要綱等)	有	ながくて未来図(長久手市第6次総合計画)(H31.3) 第3次長久手市文化芸術マスタープラン(H30.3)	9-4-5 文化の家施設費	
	事業開始の背景、経緯等	長久手市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、周辺を含め大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。このような地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、たくさんの方が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。また、豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することによって、真に市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きと誇りを持っている市を目指す。 (両者と協働不可の場合はその理由)			
市民・民間事業者との連携協働の可能性	両者と協働可				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市の文化芸術政策の基本理念『とも創る きらめく長久手』を実現するために、3つの基本方針のもと、6つの事業に取り組む。事業については、重点的な5つの施策を定め、今計画期間において特に力を入れて取り組む。これらの取り組みを基礎にして、さまざまな分野に文化芸術を活用していく。
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、団体などの施設利用者及び来館者
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 「暮らしが楽しい地域・環境の創出」「地域の活力の向上」「主体的なまちづくりの担い手の育成」「経済の活性化」などを 実現、市民が地域に愛着と誇りを持ち、快適で魅力と活力あるまちづくり

項目	単位	区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
			(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)
事業費(A)	千円	予算	726,213	219,818	210,716	214,926	211,881
		決算	985,154	212,251	207,453	243,525	
人件費(B)	千円	決算	51,935	44,117	36,780	36,472	
総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	1,037,089	256,368	244,233	279,997	
事業対象の数(D) (R3年度は想定数)	人		386,936	499,284	458,006	180,951	300,000
対象あたりコスト(C/D)の 過去3年平均値	千円		3	1	1	2	

成果指標 (事業の意図を反映する指標)	単位	区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
			(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)
施設使用料収入	千円	目標	15,181	19,296	21,680	23,756	23,756
		実績	21,680	23,756	19,383	11,015	
(指標の設定根拠) 文化芸術活動の動態と利用者サービスの評価を示すものであるとともに、運営の基盤となるものであるため。 (前年から指標を変更した場合はその理由)			(数値目標の根拠) 過年度の実績を考慮し、事業成果が反映されるようにする。原則として、予算額を目標値とする。 ただし、令和元年度末以降、新型コロナウイルス感染症対策による閉館及び利用規制により、目標値の達成は困難な状況である。				
(前年までの指標) 施設使用料収入							

これまでの振り返り	目標達成状況・分析コメント	(成果指標等の目標に対する達成状況・分析状況や進捗状況など) 新型コロナウイルス感染症対策による閉館及び利用規制により目標値には達しなかった。
	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 施設利用については、時間貸しを可とする利用時間の見直しにより新たな利用者が増加した。休日のホールや、舞踊室、音楽室といった一部の施設は、希望者が多く、予約がとりにくい状況がある。
	改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) 施設に限りがあり、利用率が向上しても得られる収入に限りがある。運営の収支の格差が問題視されており、利用者数やサービス水準を下げないで、収入を増やす料金形態を構築するかが課題である。

事業を構成する事務事業①	創造スタッフ創造活動事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
(1)	創造スタッフ企画による市民参加の延べ人数	人	見込	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000
			実績	1,444				
(2)	【アクションプラン】 社会貢献につながる取組を行うアーティストの人数【累計】	人	見込	7	6	6	6	6
			実績	7				
(3)			見込					
			実績					
<備考:活動の概要(R2年度(2020))> ・新型コロナウイルス対策事業(青空コンサート)4回 75人+5台 ・舞台公演事業7回 814人・企画展示事業1回 475人・処方箋事業5組 ・オンライン動画作成8本 長久手市文化の家創造スタッフ制度を導入。社会貢献事業として、支援の対象とする人々が文化芸術に触れる場を造るアウトリーチ等を実施。							今後の方向性	拡充

事業を構成する事務事業②	創造スタッフ創造活動事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
(1)	市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
(2)	【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込					
			実績					
(3)			見込					
			実績					
<備考:活動の概要(R2年度(2020))>							今後の方向性	

事業を構成する事務事業③	創造スタッフ創造活動事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
(1)	市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
(2)	【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込					
			実績					
(3)			見込					
			実績					
<備考:活動の概要(R2年度(2020))>							今後の方向性	

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 民間委託を積極的に進めてきたが、施設管理のための委託料と経年劣化による修繕料が支出の大半を締める状況にあり、収支の差が深刻な課題となっている。 経費削減に向けた業務の見直しと、収益を確保できる使用料金の見直しを行う。
	中長期の目標	(いづれまでに事業をどのような状態にしたいか) 収入を上げられない公用利用、利用者への優遇措置、維持管理費にそぐわない利用料金は、単なる経費節減では収支の差の改善には結びつかない。令和4年度から、収益に結びつけられる使用料金等の改定を実施する。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・「今後の方向性」とおり、これまでのあり方を見直し、サービスを維持するのではなく、業務を縮減しつつ経費の削減を進めてください。 ・事業実施にあたっては、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえるとともに、長久手市みんなで作るまち条例の趣旨に沿ったものとなるよう留意してください。 ・行政改革の重要課題事業に基づき、管理の見直し検討を早急に進めてください。
------	-------------------------	--

内部意見への回答		
----------	--	--